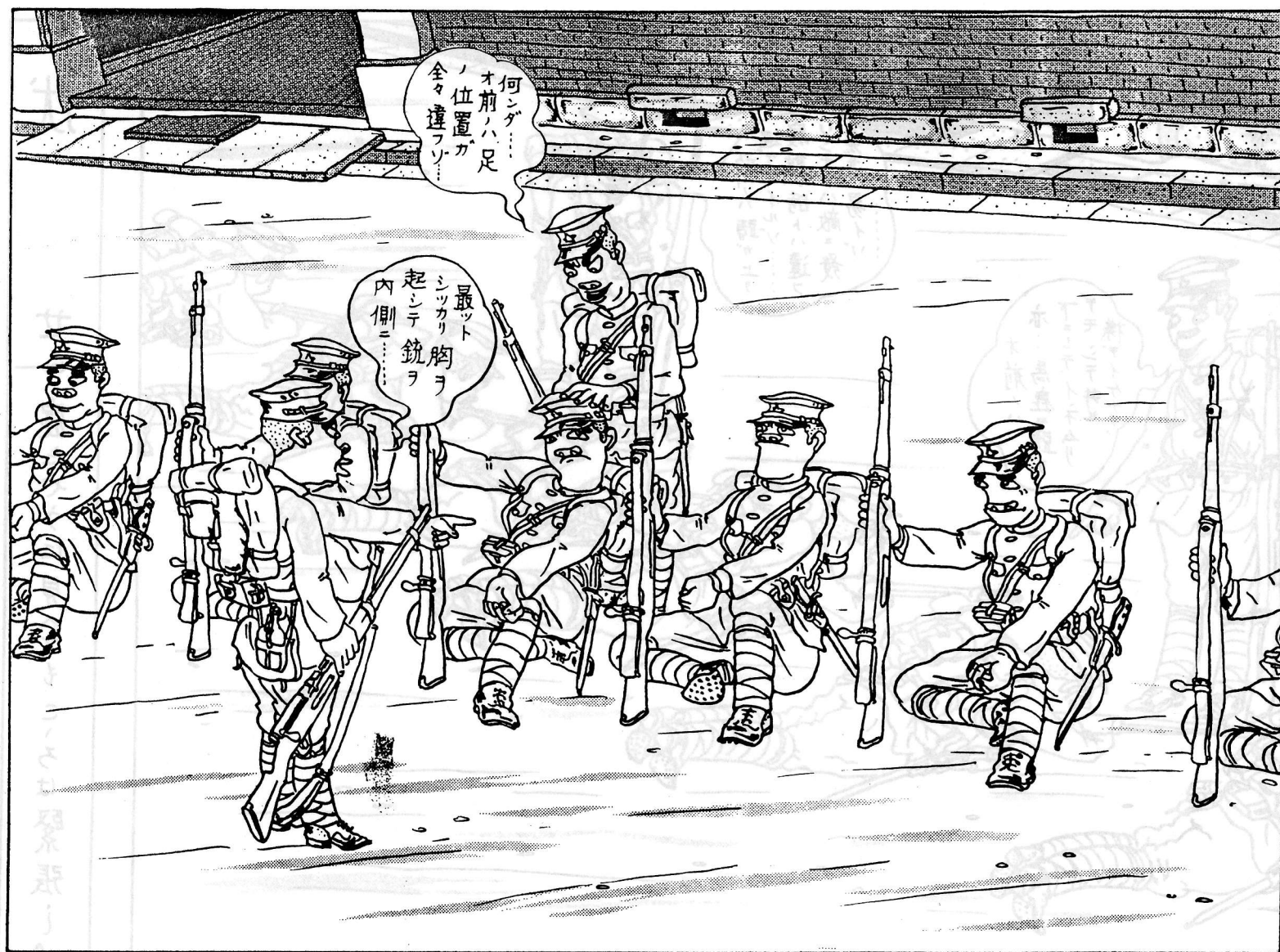


折

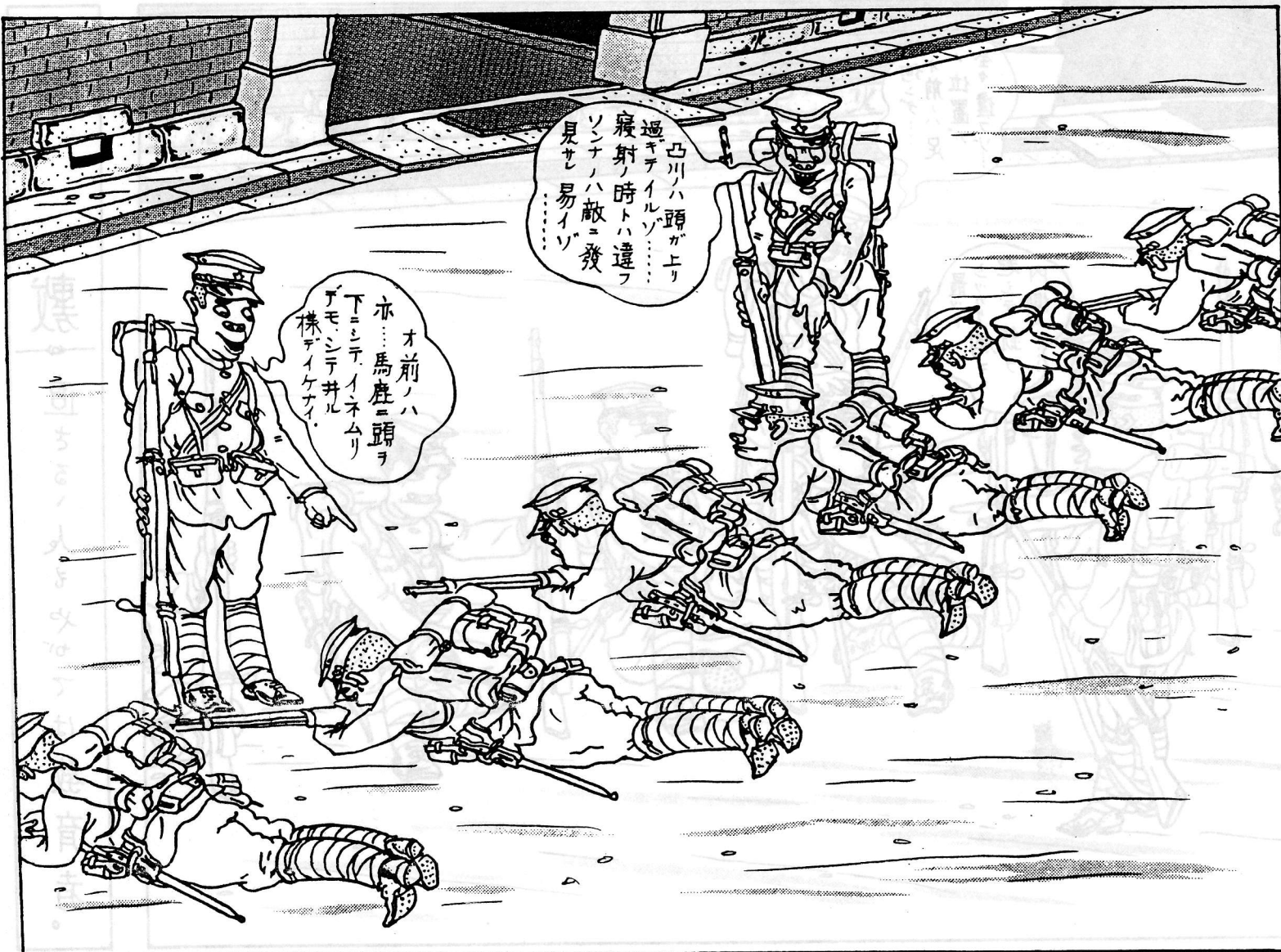
敷

直さるゝ人もやかては教育者。



伏

せ
寝たやうに見へてもころは緊張し。



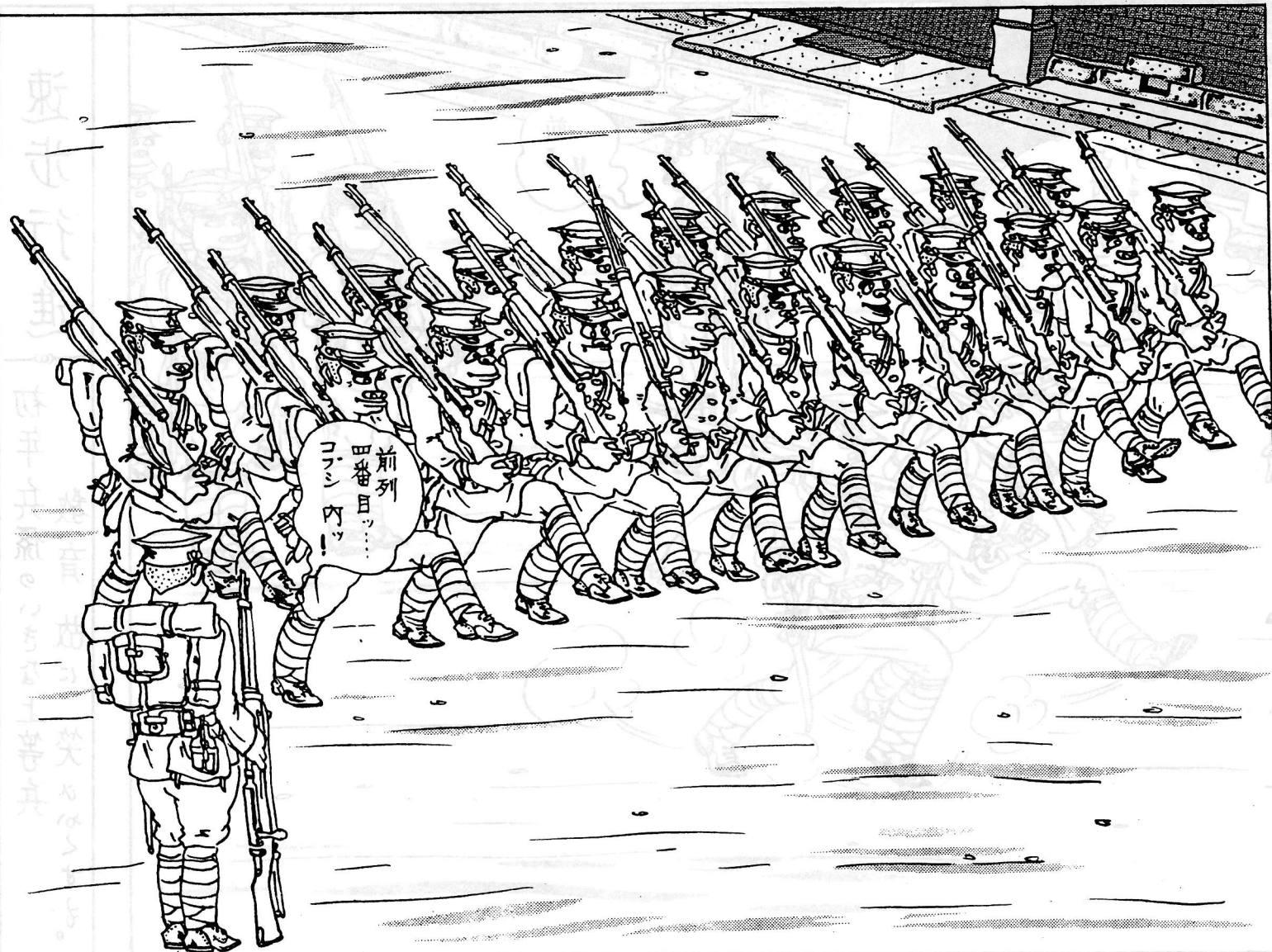
速歩行進

初年兵係のいきな上等兵
教育故に 笑ひかくすも。



小隊教練

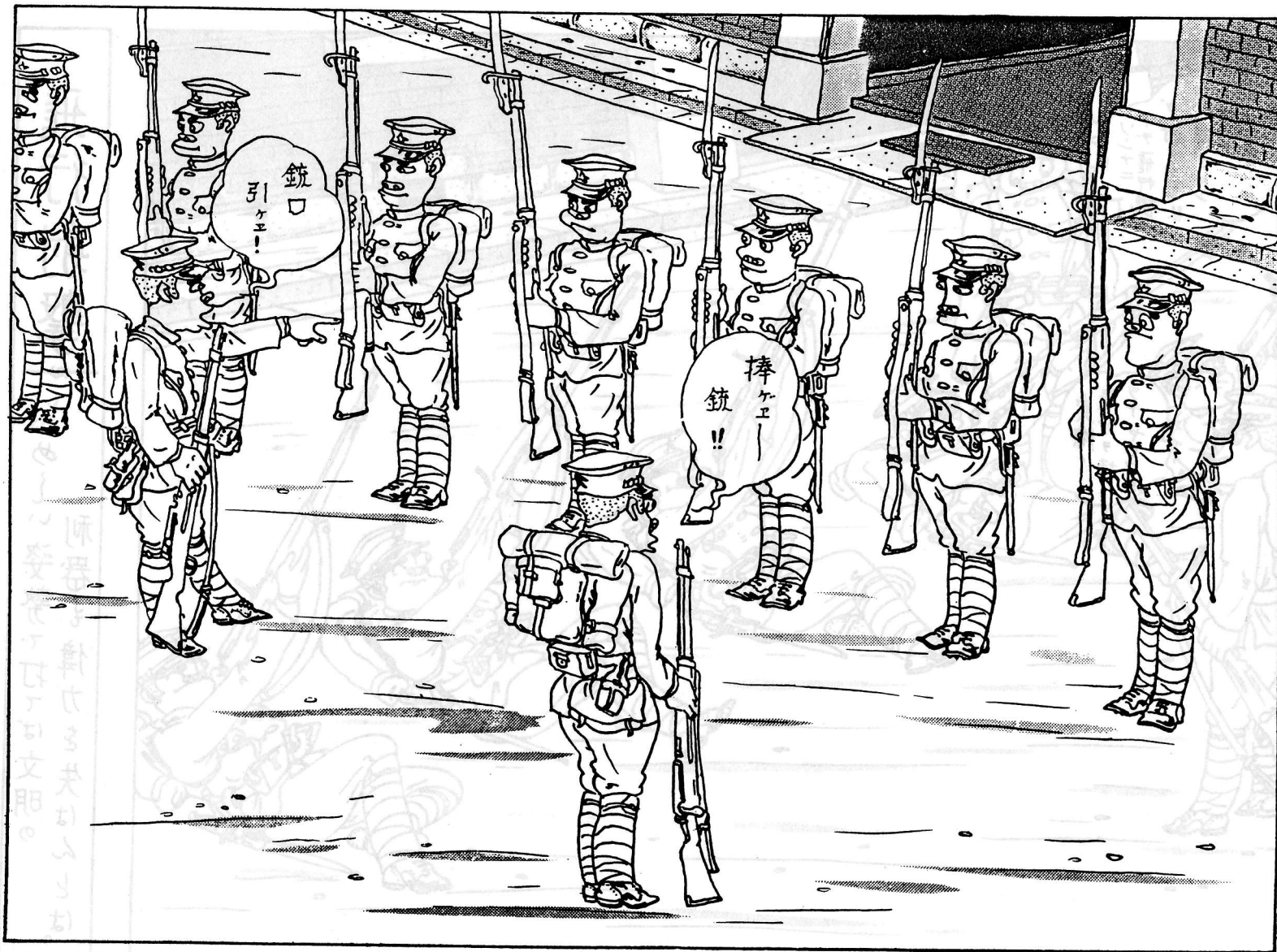
頼もしい教官殿の号令に
汗を惜しまぬ可愛干城。



棒

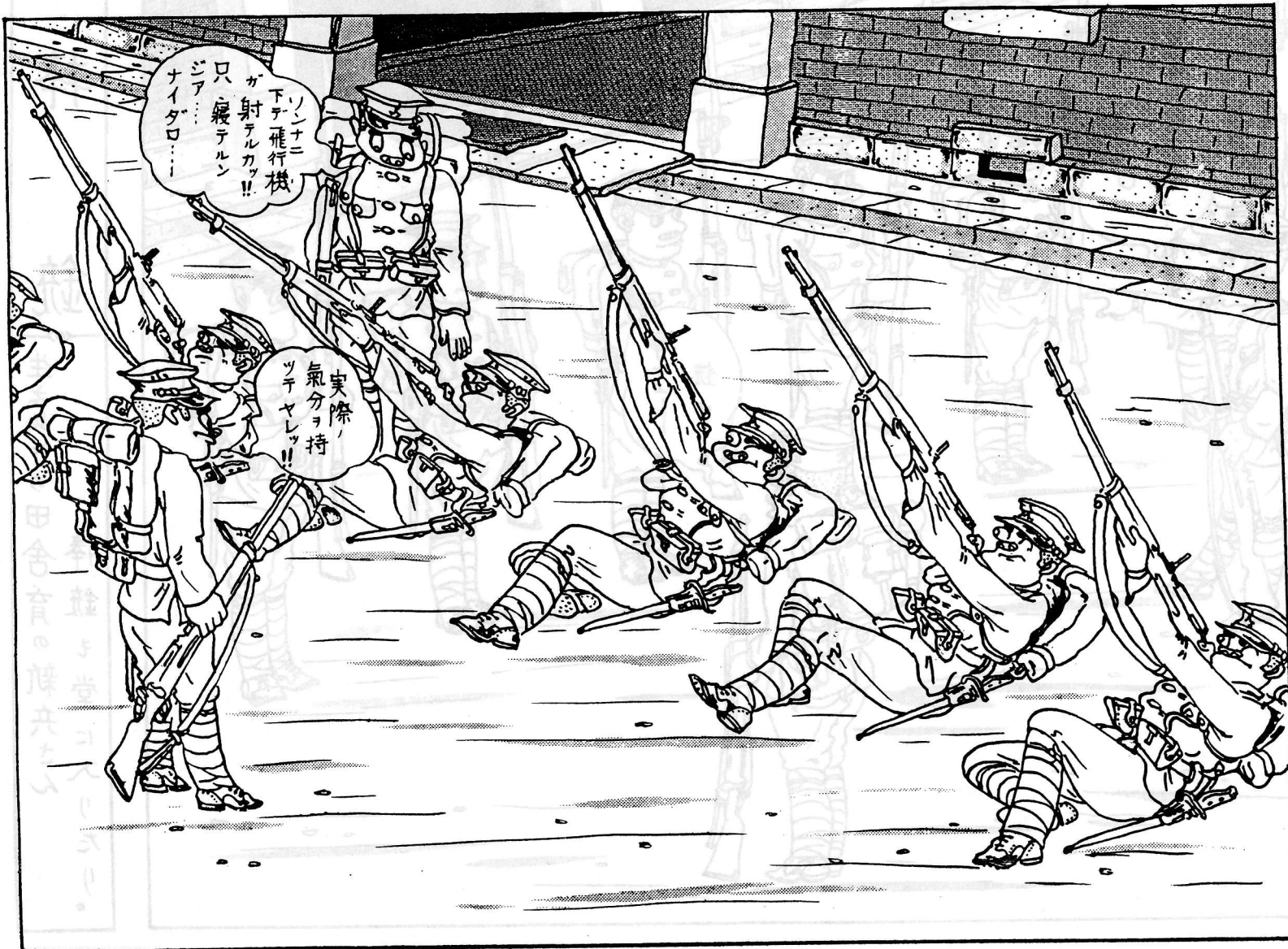
銃

生えぬぎの田舎育の新兵さん
棒銃も堂に入りたり。



飛行射撃

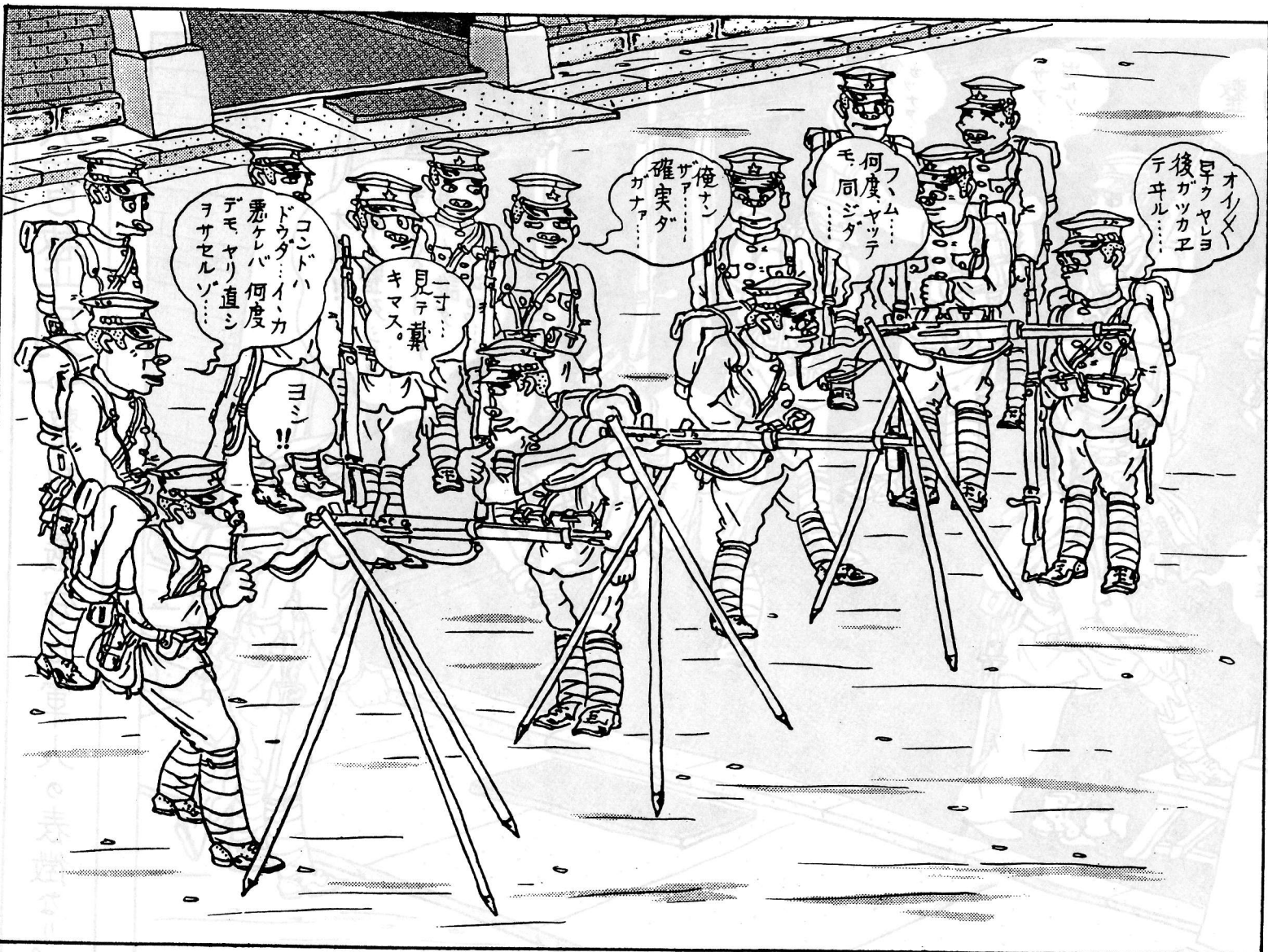
いかめしい姿勢で打てば文明の
利器も偉力を失はんとは。



照準観查

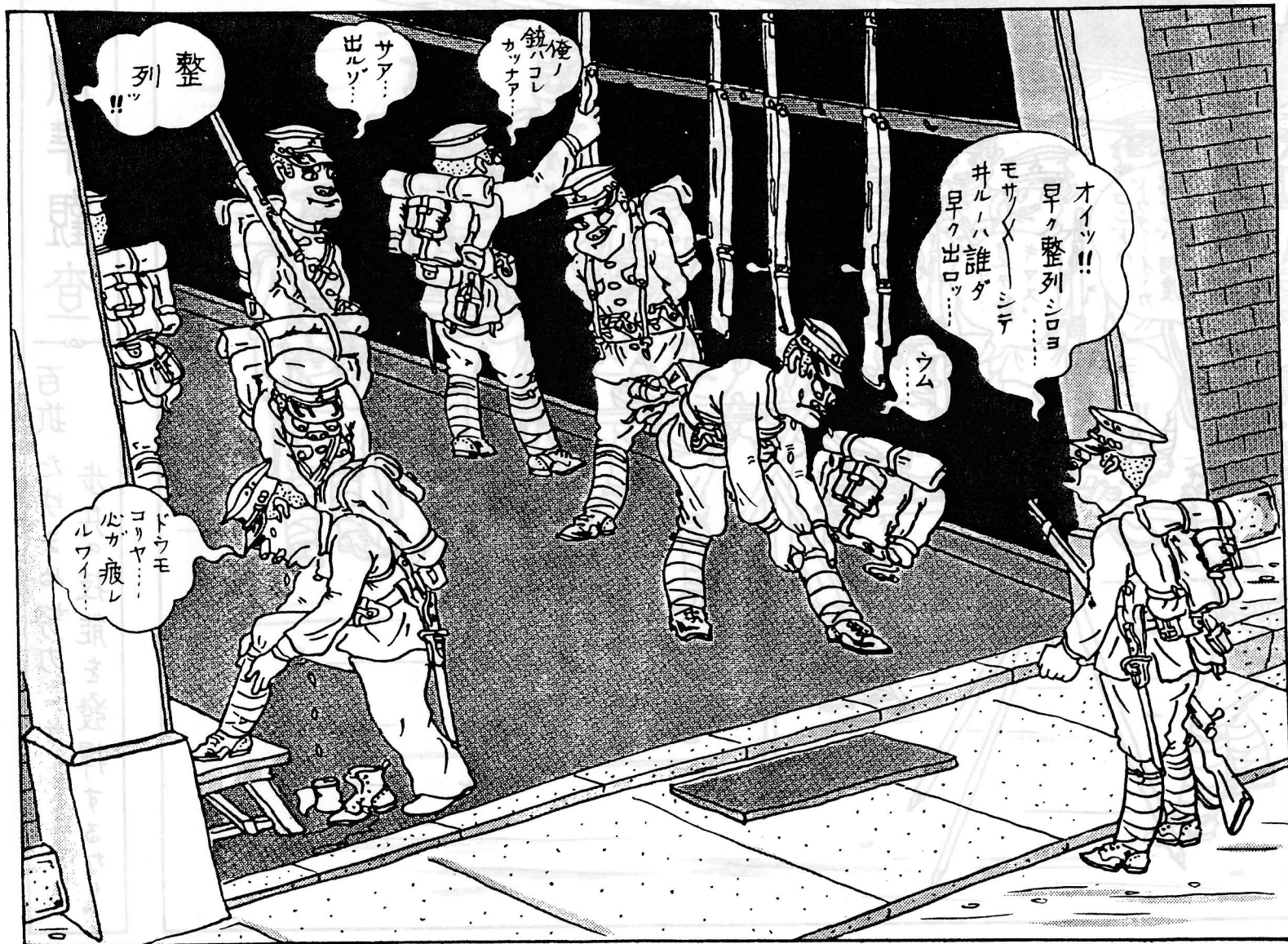
百折たゆまぬ努力こそ

歩兵の技能を發揮するなり。



演習整列

整列の厳守は軍人の表徴なり。



行

軍

強行軍 いざ戦争の役に立ち。



偽装細

注意心たりなき故に不時の敵。

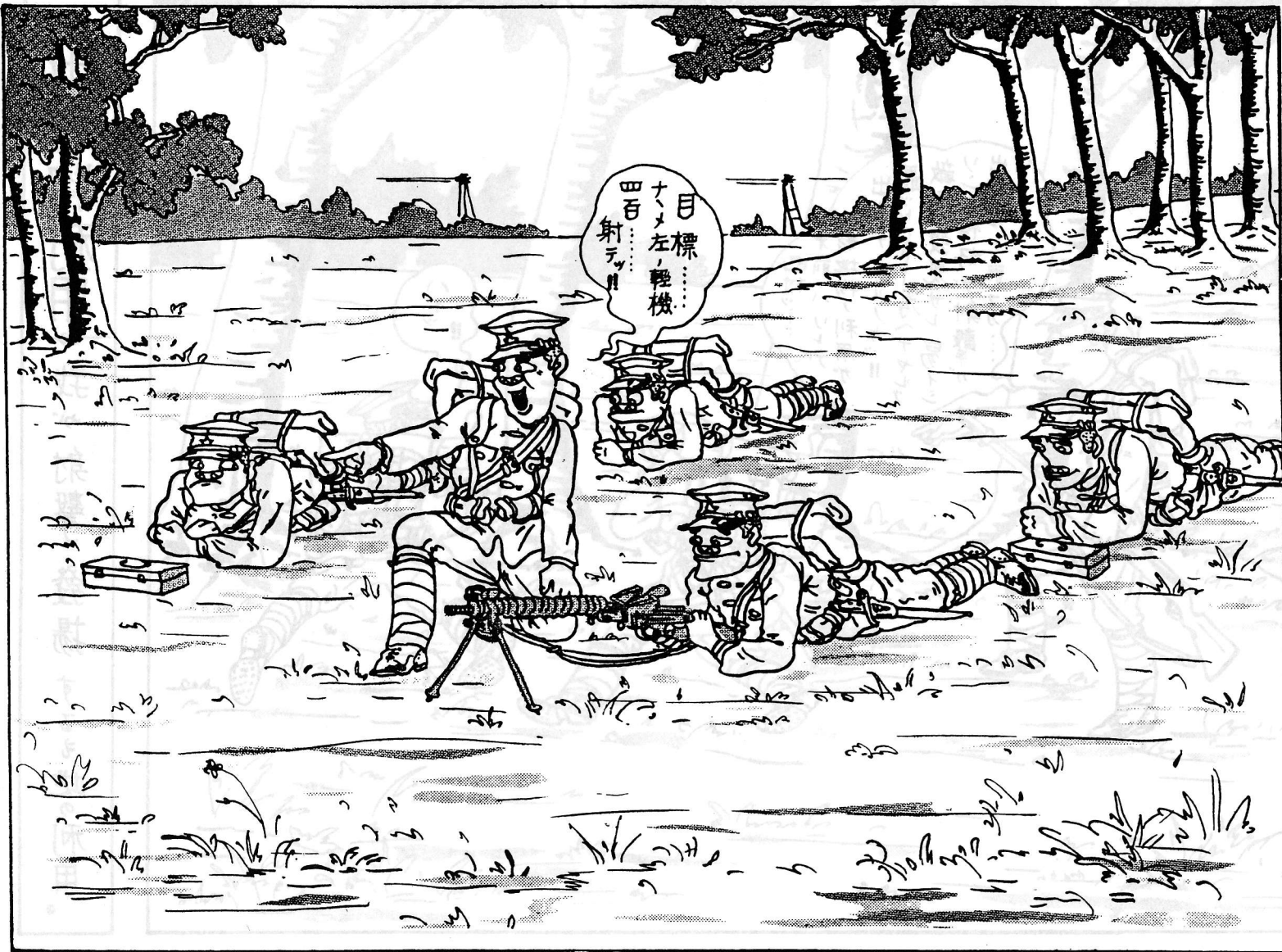


地形物利用
我が射撃發揚するも地の利用。



輕機關銃

新兵器火戰の友よ頼もしい。



夜間歩哨

微かなる虫の音さへも逃さじと
月影深く忍び行くなり。



オイッ！
前方ノ森
ガ何シダカ
怪シイゾ！！

オヤッ？

ガザッ

斥

候

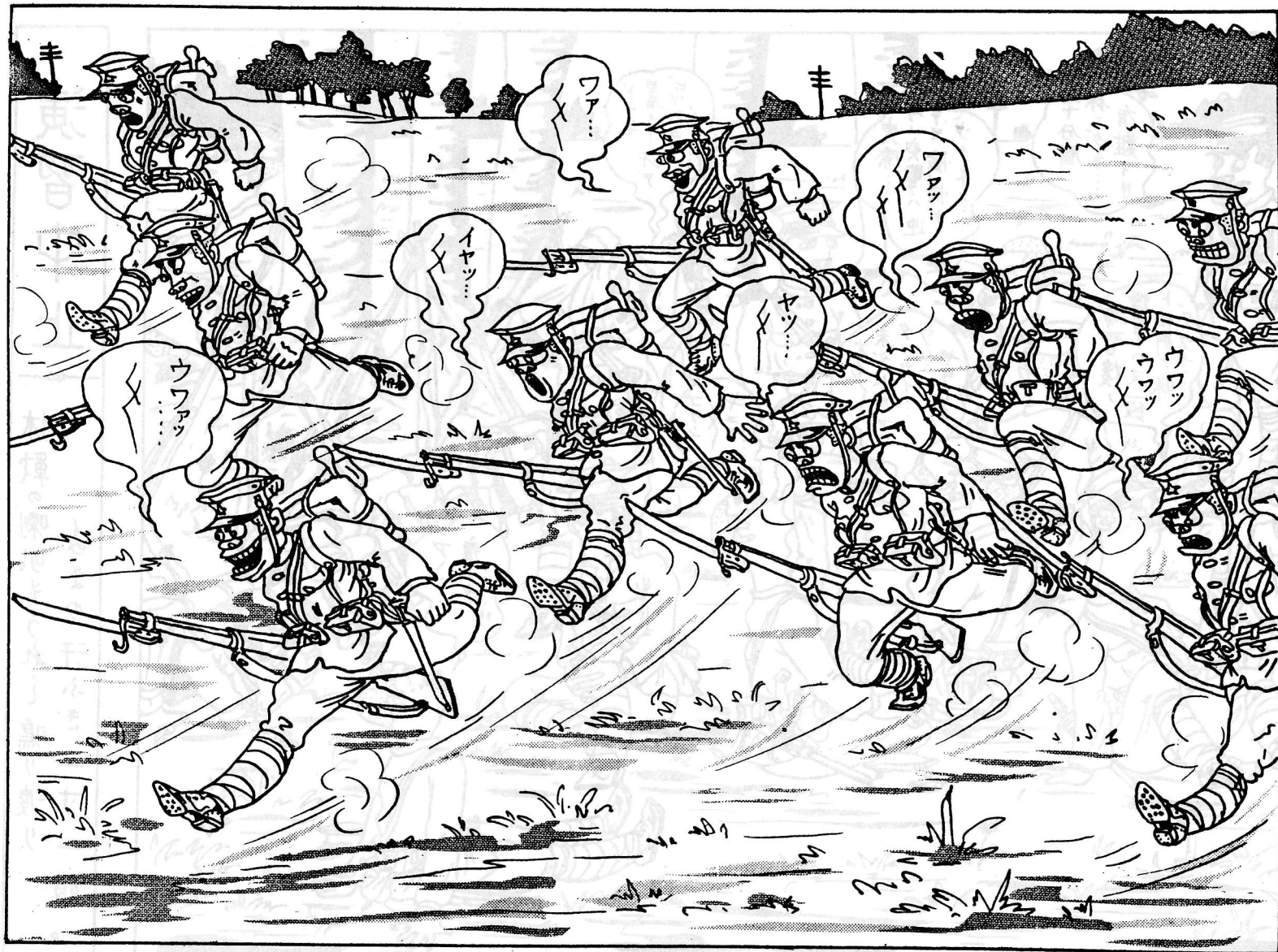
選はるゝ斥候兵は殊更に
鋭敏熱心沈着豪膽。



突

撃

突撃の最後の勝も氣勢から。



演習中止

休戦の喇叭もうれし鳴り渡り
あまの汗ふき一寸一服。



飯盒炊爨

各班に別れて炊くもまた遊びし。



非常呼集

真夜中に呼集の声に飛び起きて
暗い提灯 薄く照すも。



喇叭演習

ぬまの汗流して習ふ喇叭手の
頼もしい音も苦心からして。



軍歌演習

張り上ぐる歌声兵舎に飮して
神州男子の意氣天を衝く。



銃剣術

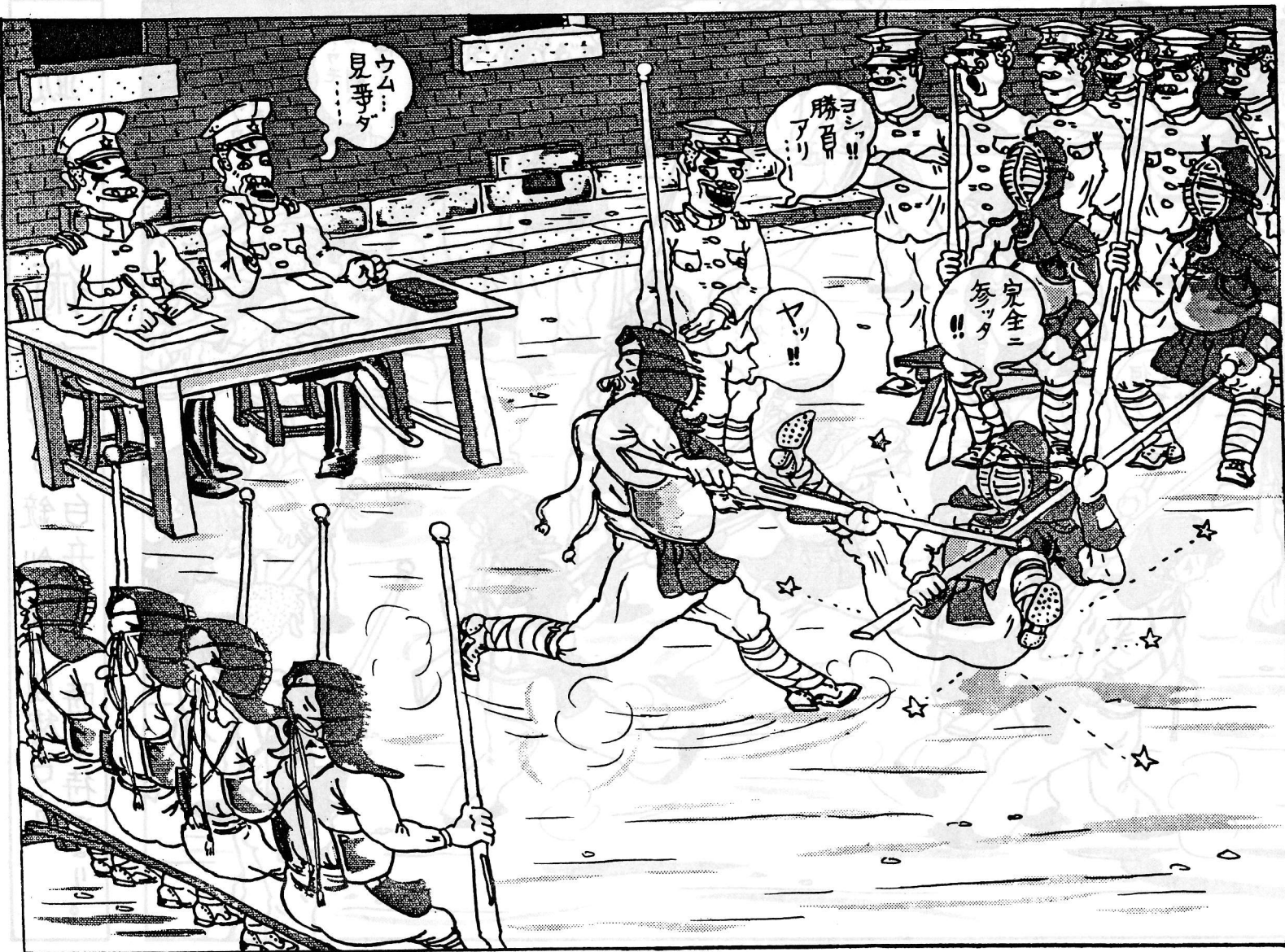
朝夕の銃剣術の間稽古も
白兵戦の時を待たなり。



試

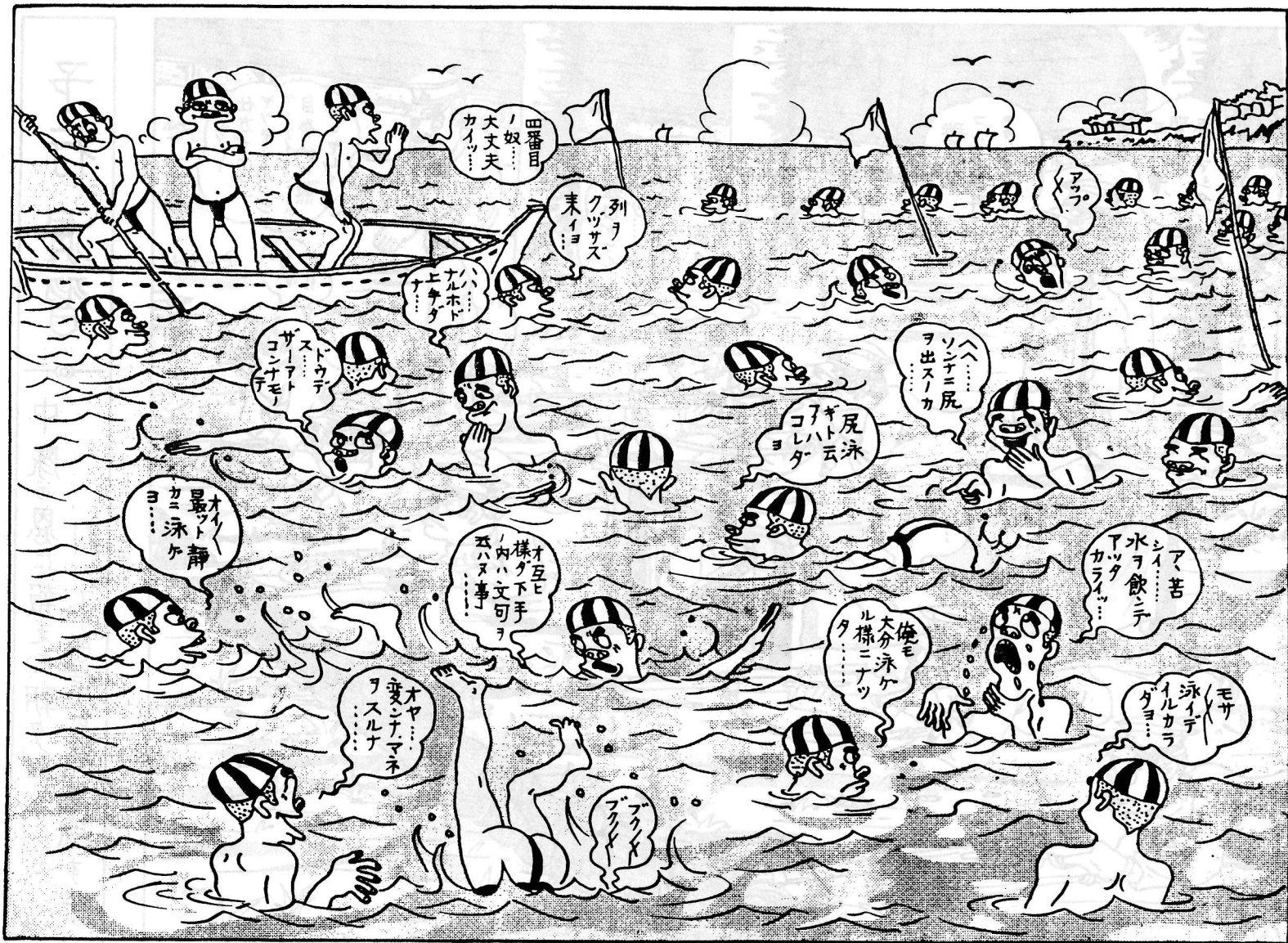
合

必勝の信念堅き人にこそ
勝利の光頭照さむ。



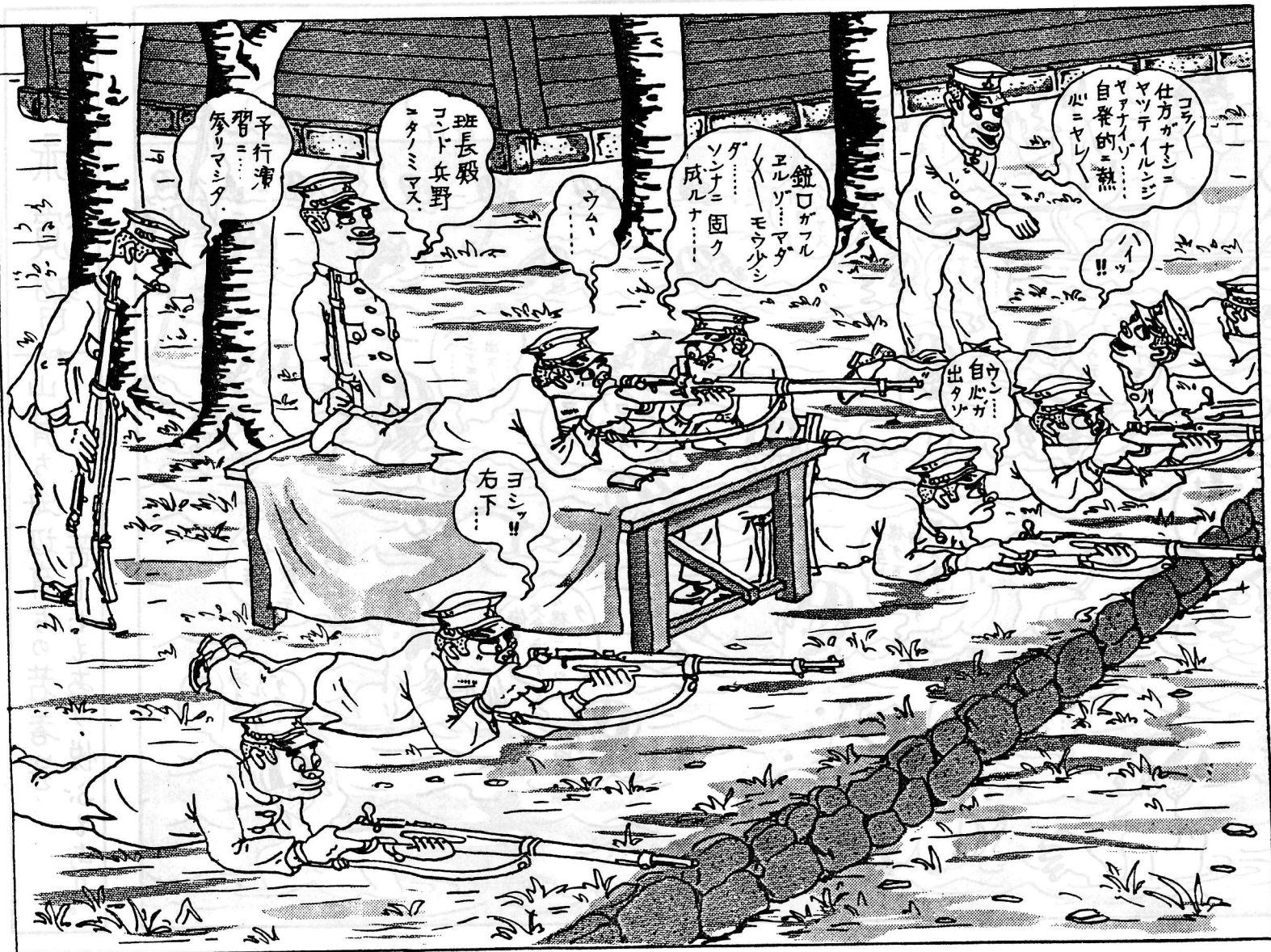
游泳演習

山育ち海辺育ちの若者等
苦しむもあり悦ぶもあり。



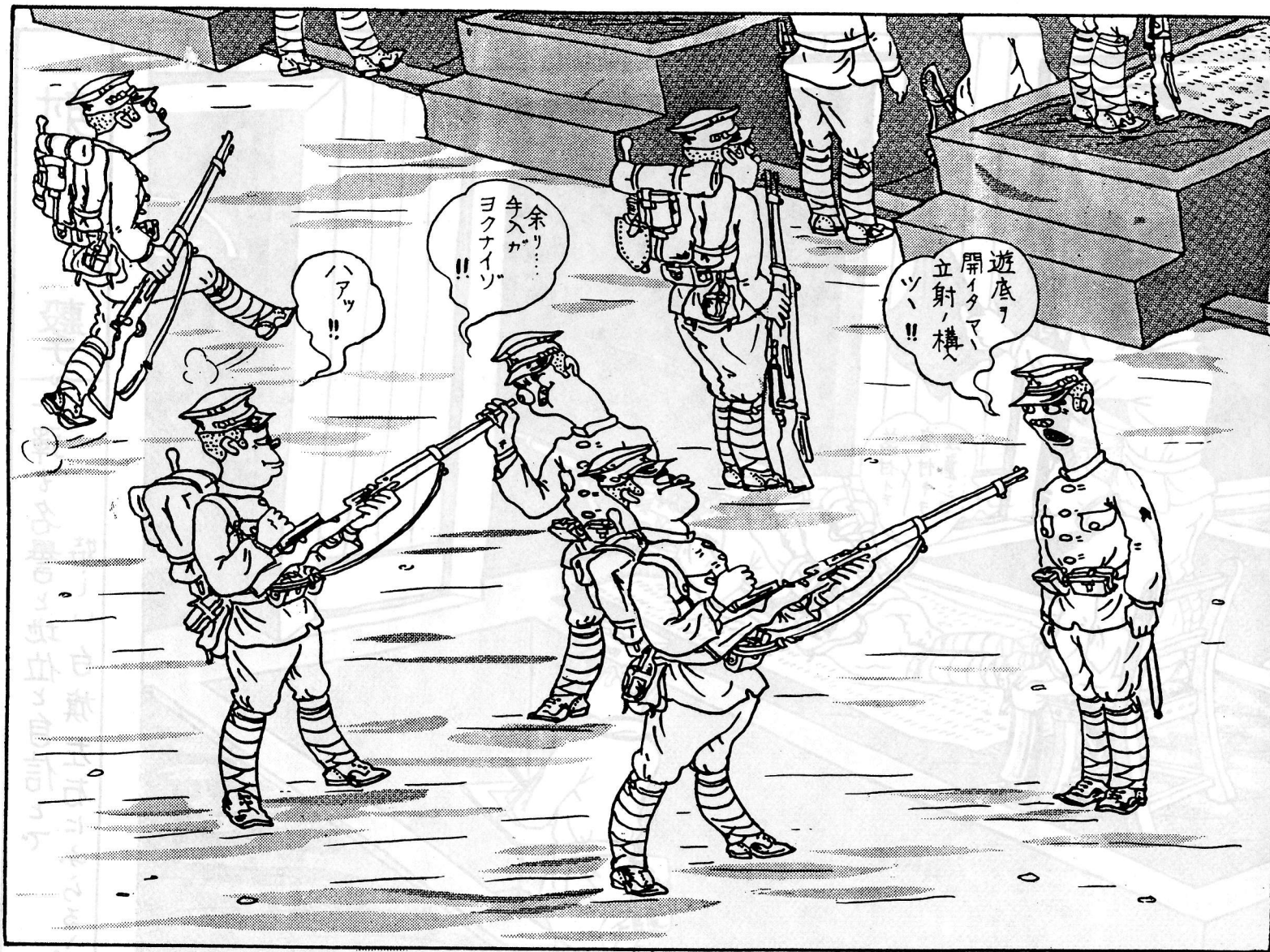
予行演習

中隊の恩に報えむ朝夕に
引いて自信の腕を撫す哉。



銃口検査

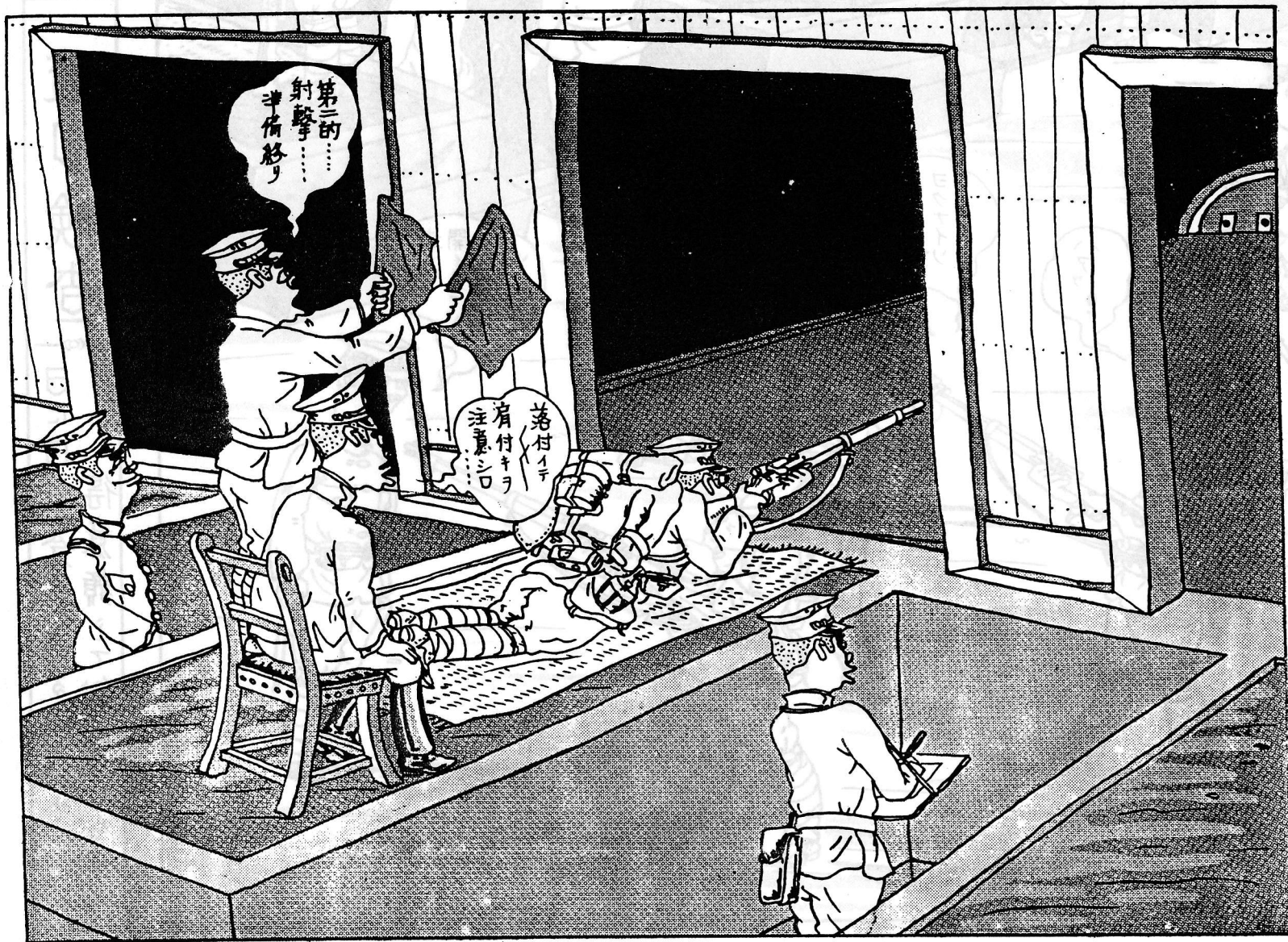
日に日にと念の入りたる手入こそ
得意類して射撃せらるゝ。



射

撃手

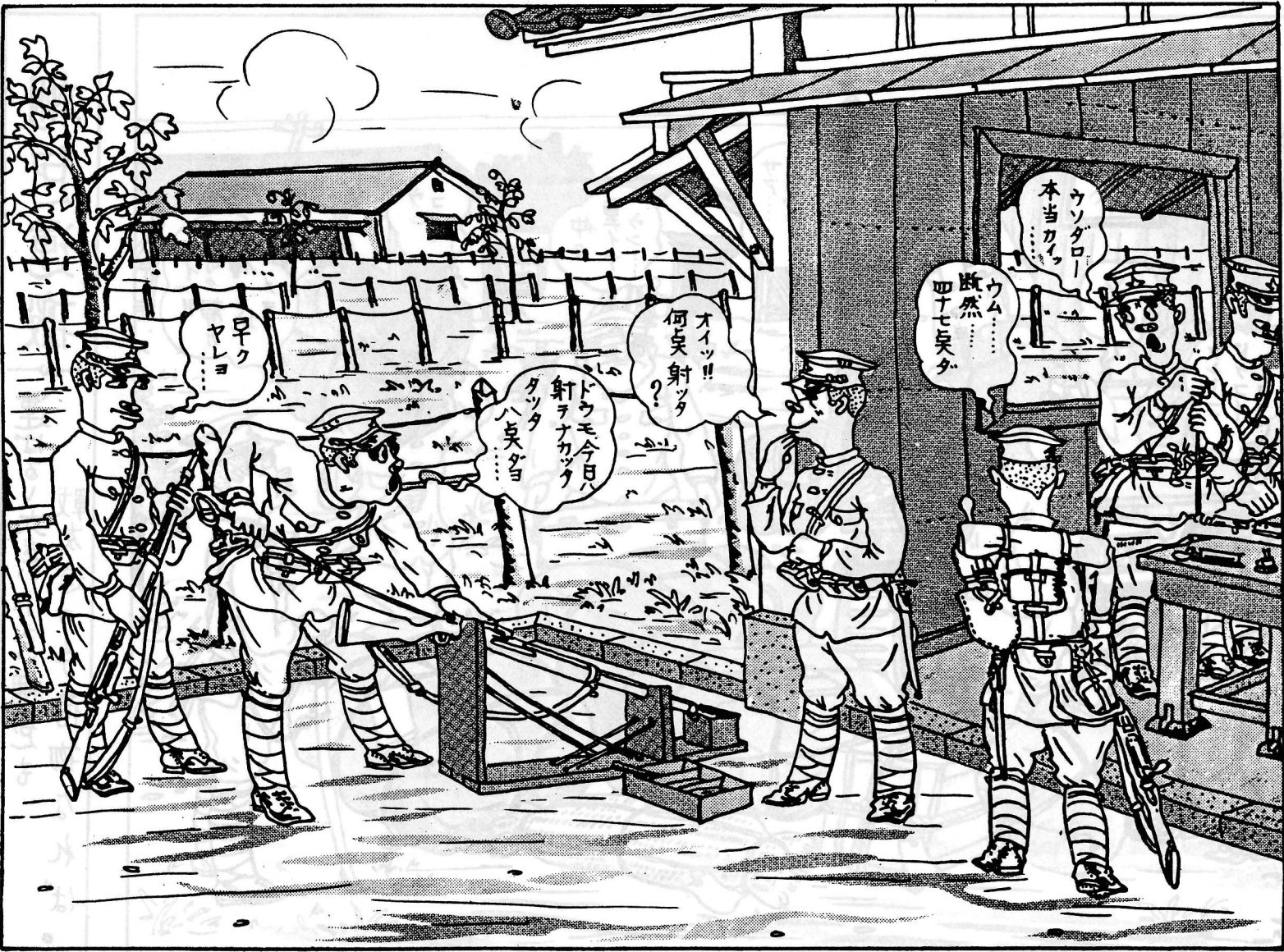
一弾も名譽と地位と自信とで
姪しい白旗左右にふらるゝ



洗

滌

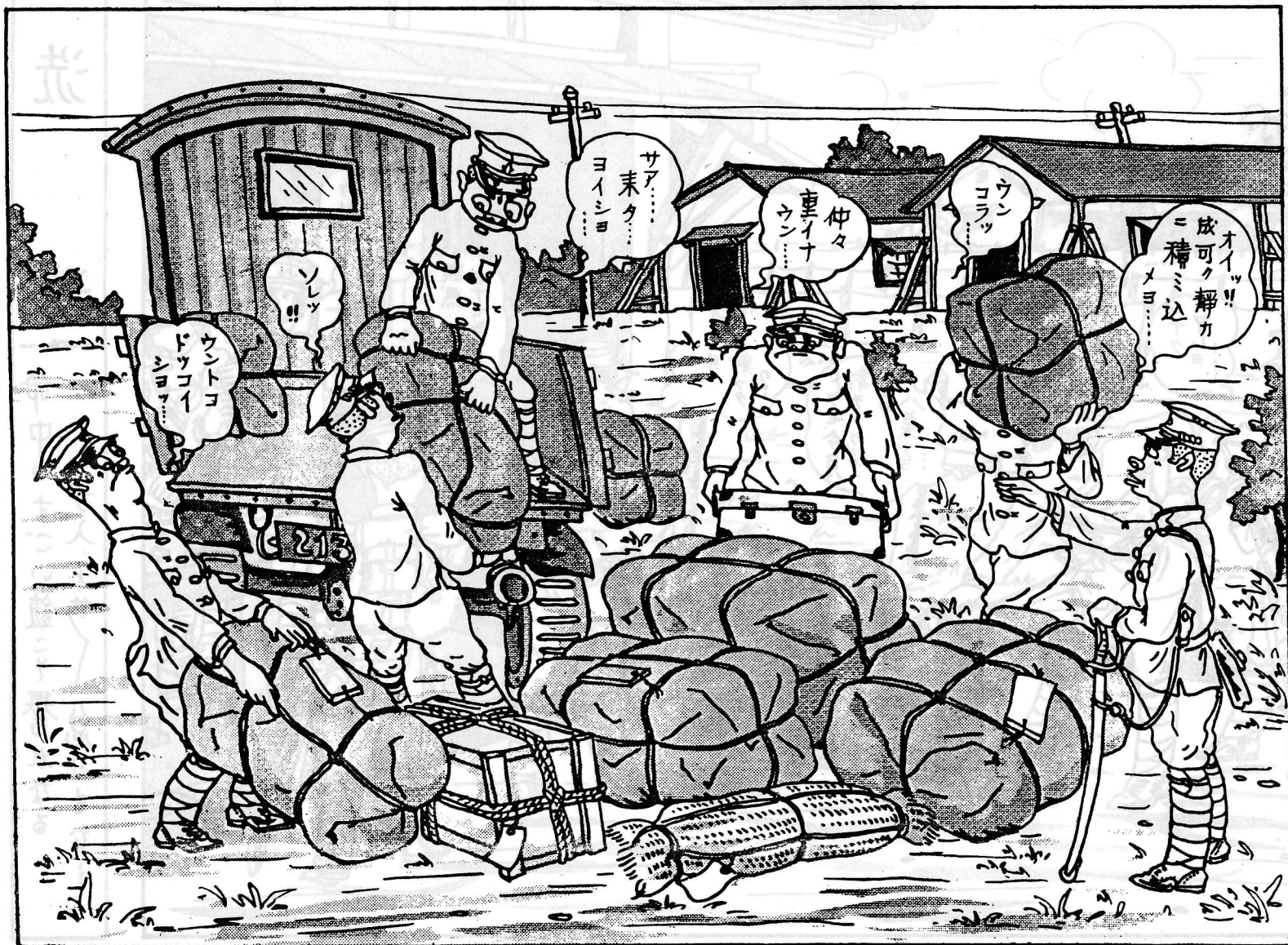
命中のすごい銃こそ譽れなる
手入 オサ／＼ 怠りもなし。



梱包運搬

運ばるゝ大きい小さい梱包も

戦友達の手荷物なれば。



廠舎生活

いかめしい將校さんも善い父よ
可愛い兵士と寝たり起きたり。

朝ノ氣
分ハ何ントモ
云エントスヤ



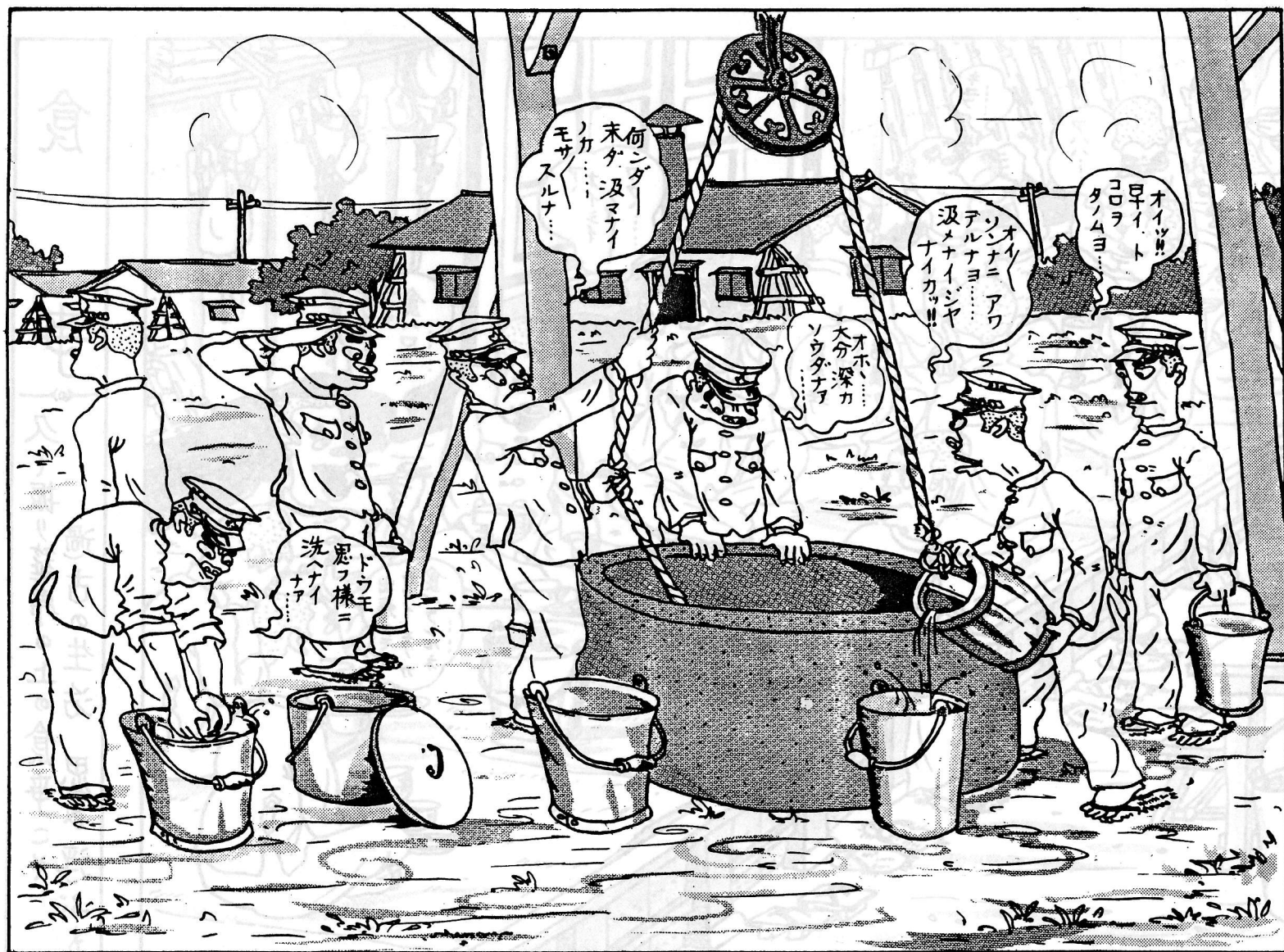
食事番

野營故 兵隊さんも藁草履
食事當番 一個分隊。



水の節約

大昔 忍ぶ お井戸の二つるべ
水の不足も修養のため。

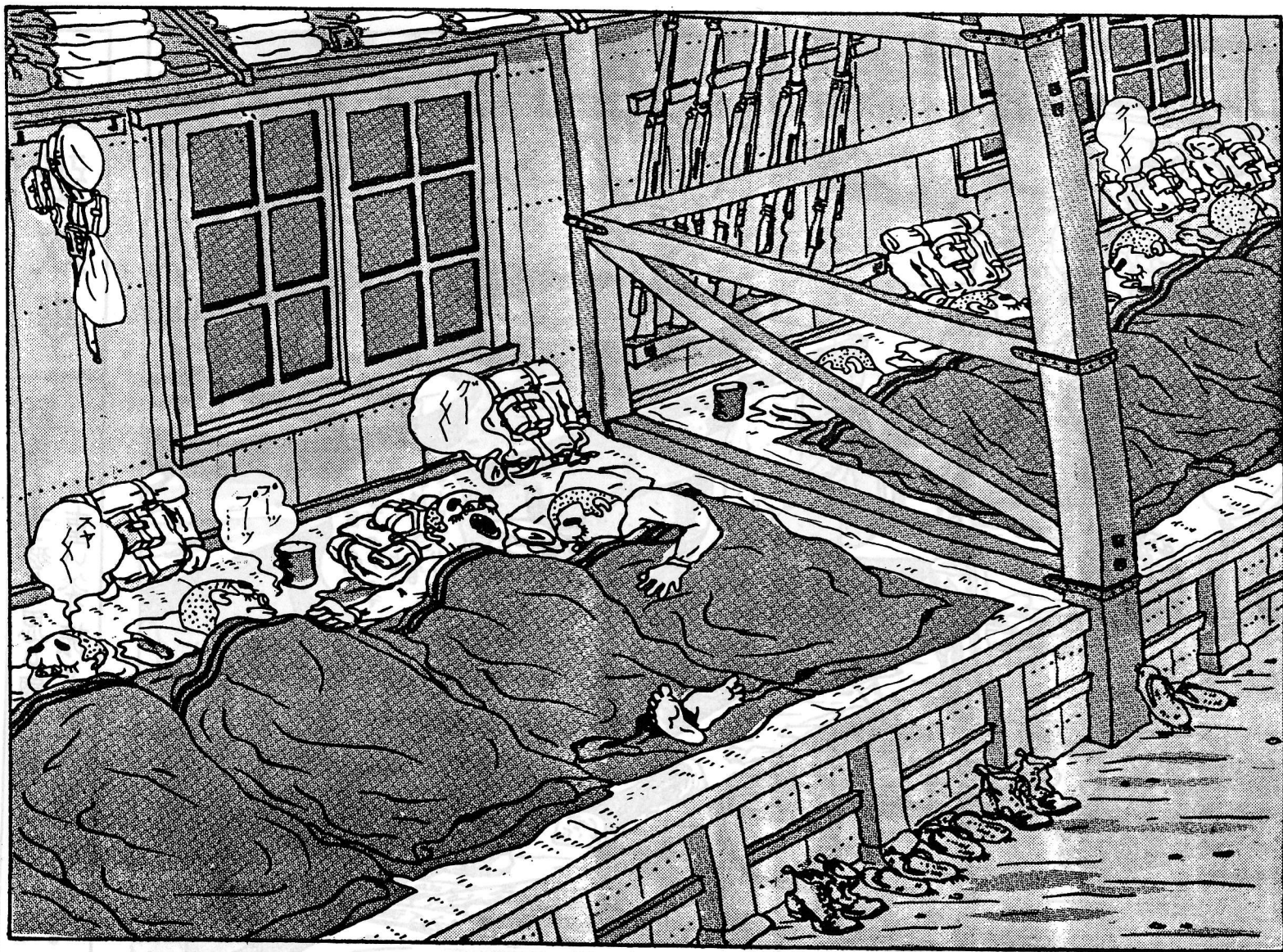


食

事

久し振り筵席の上の食事、こぞ
過古の生活 思ひ浮ぶも。





廠舎の一夜

楽しみし廠舎の夜初夢も
つかれし体それも見られず。

出張炊事

戦争の予習と思ひ國の爲
重い斧振り薪を割るのも。





漫教
画育
軍
隊
生
活

定價金壹圓也

昭和六年三月五日印

昭和六年三月十五日發

昭和七年十一月一日發行（拾八版）

發行兼
著作者

荒井一壽

東京市神田區三崎町三丁目三十七番地

印刷者

中村勝藏

東京市神田區三崎町三丁目三十七番地

印刷所

合資會社 中村印刷所



發行所

軍武書院

東京市神田區三崎町三丁目三十七番地

電話九段331二三〇三番
振替東京三一九三七番

AST, 154

17

1

1

1

1

2006.12月

利
上
意
一

洗

面

氣持良く暮すは

其の日の朝にあり。



外掃除

葉の塵葉残すな外掃除。
隅みぐまでも清潔にして。

